

パネルディスカッションⅠ

障害のある社員が働き続けるために
～障害の多様性と多様な働き方に向き合う中小企業～



【コーディネーター】

高瀬 健一(障害者職業総合センター 主任研究員)

【パネリスト(話題提供順)】

今井 真路(株式会社I.S.コンサルティング 代表取締役)

中津川 健二(サクラ電線工業株式会社 取締役副社長)

松山 純子(YORISOU 社会保険労務士法人 代表)

障害のある社員が働き続けるために

～障害の多様性と多様な働き方に向き合う中小企業～

厚生労働省の「今後の障害者雇用促進制度の在り方に関する研究会」等において、就労したい障害者の希望の多様化に応じ、働き方の選択肢の拡大や、長く安定して働き続けられる環境整備が議論されています。

これらの課題に向けた取組は大企業による情報が多く、中小企業を中心に自社に導入することが難しいと感じている企業も多いと聞いています。また、障害者職業総合センターの研究成果において、大企業と比較して中小企業においては、障害者の雇用経験のない企業の割合が高く、雇用する障害者の障害の種類について身体障害以外の割合の低さがみられます。

これらを踏まえて、本パネルディスカッションは、全国の中小企業の取組事例として、近年、柔軟な雇用形態の運用により障害者を雇用している企業と、長年、精神障害者の雇用に取り組んでいる企業にパネリストをお願いし、企業における取組事例を報告いただきます。さらに、企業の多様な障害者雇用の実現に向けた相談に対応されている社会保険労務士に2社の事例も踏まえつつ、どのように障害者の採用とその後の職場定着を進めればよいかについてご意見をいただきます。障害者の雇用継続を中心に、雇用の質の向上や能力の発揮なども視野に、中小企業が直面している諸課題への対応策について、本パネルディスカッションに参加いただくみなさまとともに議論し、実践的な障害者雇用のヒントを得たいと思います。

コーディネーター	高瀬 健一
	障害者職業総合センター 主任研究員

パネリスト	今井 真路 氏
	株式会社I.S.コンサルティング 代表取締役 (兵庫県神戸市)

発達障害のある方の職場実習の受入から障害者雇用の取組を本格的に始めました。社内の理解促進や職務の選定など、直面した課題に一つずつ対応し、それぞれが能力を発揮しながら働き続けることができる職場環境を整えるために当社で取り組んだ内容についてご紹介します。

パネリスト	中津川 健二 氏
	サクラ電線工業株式会社 取締役副社長 (神奈川県相模原市)

工作機械や産業用ロボット、産業用のワイヤーハーネスや各種ケーブルを製造する現場に勤務する精神障害のある社員が10年以上勤務しています。また、知的障害のある社員は64歳まで勤務していました。そこで生じた加齢に伴う各種問題への対応事例や、個々の作業能力を見極めて力を発揮できる職場環境を整えてきた当社における取組についてご紹介します。

パネリスト	松山 純子 氏
	YORISOU 社会保険労務士法人 代表 (東京都中野区)

社会保険労務士として障害者雇用のコンサルティング業務をしてきた経験から、企業が働き方の選択肢を模索し、障害のある社員が能力を発揮しながら安心して働き続けられる職場づくりを進める中で、その抱える課題の共通点や問題の傾向について、考え得る対応策や解決のポイントなどを事例を交えながらご紹介します。

